

## 土づくりプロジェクトで 宮古島の農業を活性化

### オオバ



植樹祭の様子。約150人が参加し、500本の樹木を植えた

### 農産物ブランド化などエコストアと連携

総合建設コンサルタン  
トのオオバは、環境に配  
慮した土作りの技術を宮  
古島で展開していく方針  
を固めた。その第1歩と  
して、宮古島初の「エコ  
ストア」として昨年11月  
にオープンした「イオン  
タウン宮古南ショッピング  
センター」敷地内で開  
催された植樹祭で、同社  
の土づくりの技術を提供  
した。

同社は、赤土の流出が  
問題となっていた沖縄県  
の海を保全するため、泡  
盛の酒粕を堆肥として利  
用する土づくりを独自に  
編み出した。海、河川の  
汚染抑制にとどまらず、  
土壌改良、産業廃棄物の  
減量、農業の効率向上な  
ど様々な分野で副次的な  
効果を上げている。

宮古島では現在、サト  
ウキビが農作物の9割を  
占めており、大量の化学  
肥料による地下水の汚染  
が懸念されている。そこ  
で同社は「宮古の地下水  
と碧い海を守る土づくり  
プロジェクト」として、  
島内の未活用バイオマス  
を利用した新たな堆肥化  
施設の建設や、無農薬、  
無化学肥料農業を実現し  
て新宮古島農産物フラン  
ド化事業を設立し、同シ  
ョッピングセンターで販  
売することなどを提唱し  
ている。

そのために、酒粕や有  
機系廃棄物を堆肥化する  
施設から農地に堆肥を散  
布し、市場に流通させる  
までの流れを請負する  
「次世代型農業法人」を  
設立する考えだ。201  
2年の始動を目指す。

宮古島では新空港建設  
をはじめ、リゾート地と  
しての開発計画が進んで  
いる。農作物の多様化で  
「宮古島ブランド」が新  
たに生まれれば、島の活  
性化に一役買いそうだ。